

生きる支援・つながるまち よこすか

～第2次横須賀市自殺対策計画～

資 料

資料

自殺対策計画策定の経過

1 会議経過

(1) 自殺対策推進協議会

回数	開催日	主な議題
第1回	令和5年6月9日	・横須賀市の自殺の現状について ・第1期横須賀市自殺対策計画の達成状況及び暫定評価について ・第2期横須賀市自殺対策計画策定について
第2回	令和5年10月5日	・横須賀市自殺対策計画について ・今後のスケジュールについて ・その他
第3回	令和6年1月23日	・横須賀市自殺対策計画について ・今後のスケジュールについて

(2) 自殺対策推進協議会計画策定検討チーム

回数	開催日	主な議題
第1回	令和5年8月8日	・自殺対策計画の骨子について(報告) ・自殺対策計画の目標について ・その他 1)基本方針について 2)重点施策(高齢者の自殺対策の推進)について 3)重点施策(勤務問題に関わる自殺対策の推進)について
第2回	令和5年8月17日	・自殺対策計画の骨子について(報告) ・チーム名称の検討 ・仮称・女性に優しい自殺対策の重点施策について ・その他
第3回	令和5年8月18日	・自殺対策計画の骨子について(報告) ・子ども・若者向けの自殺対策の課題の整理 ・子ども・若者向け自殺対策の重点施策について ・その他

(3) 自殺対策推進課長会議

回数	開催日	主な議題
第1回	令和5年12月22日	・横須賀市の自殺対策計画及び自殺の現状について ・自殺対策の取組の進捗状況について

(4) 横須賀市自殺対策推進本部

回数	開催日	主な議題
第1回	令和6年2月13日	・横須賀市の自殺対策計画について ・横須賀市における自殺対策計画の概要について

2 市民意識調査実施

調査名	横須賀市こころの健康に関する市民意識調査
期間	令和4年9月10日から10月20日まで

(詳細P.14参照)

3 パブリック・コメント手続（意見募集）実施

公募期間	令和5年11月17日から12月6日まで（20日間）
意見件数	意見はありませんでした。

4 自殺対策関係会議

(1) 令和5年度横須賀市自殺対策推進協議会

(敬称略)

	氏名	所属・役職	検討チーム			
			総論	若者	女性	
1	座長	大滝 紀宏	総合病院湘南病院 院長	○		○
2	副座長	奥原 孝幸	神奈川県立保健福祉大学 リハビリテーション学科 教授	○	○	
3	構成員	後藤 健一	汐入メンタルクリニック理事長		○	
4		荒木 稔	横須賀市薬剤師会 会長			○
5		河野 伸子	横須賀共済病院 リエゾン担当師長			○
6		島貫 修二	横須賀市立大津小学校 校長		○	
7		前島 光	横須賀市立坂本中学校 校長			○
8		樫福 宏征	神奈川県弁護士会 横須賀支部	○		
9		平岩 伸康	神奈川県司法書士会 横須賀支部 支部長		○	
10		後藤 圭一	横須賀警察署 生活安全課長 (令和5年9月30日まで 本多 俊雄)	○		
11		渡邊 春彦	田浦警察署 生活安全課長		○	
12		金原 健一郎	横須賀南警察署 生活安全課長			○
13		君島 富美江	横須賀市民生委員児童委員協議会 副会長	○		○
14		中島 直行	NPO法人横須賀こころの電話 理事長	○		
15		藤尾 聡允	NPO法人全国自死遺族総合支援センター	○		○
16		玉井 秀直	横須賀市居宅介護支援事業所連絡協議会 会長		○	
17		渡辺 大雄	公益財団法人横須賀市産業振興財団 常務理事		○	
18		恩田 一弘	横須賀公共職業安定所 次長			○
19		生田 悟	横須賀労働基準監督署 安全衛生課長	○		
20		工藤 幸久	横須賀商工会議所 事務局長兼総務渉外課		○	
21		笥 修一	市民公募	○		
22	平井 成花	市民公募		○	○	
23	土田 賢一	横須賀市保健所長	○	○	○	

関係法規

1 自殺対策基本法

(平成十八年六月二十一日 法律第八十五号 平成28年3月30日改正)

第一章 総則

(目的)

第一条 この法律は、近年、我が国において自殺による死亡者数が高い水準で推移している状況にあり、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して、これに対処していくことが重要な課題となっていることに鑑み、自殺対策に関し、基本理念を定め、及び国、地方公共団体等の責務を明らかにするとともに、自殺対策の基本となる事項を定めること等により、自殺対策を総合的に推進して、自殺の防止を図り、あわせて自殺者の親族等の支援の充実を図り、もって国民が健康で生きがいを持って暮らすことのできる社会の実現に寄与することを目的とする。

(基本理念)

第二条 自殺対策は、生きることの包括的な支援として、全ての人がかげがえのない個人として尊重されるとともに、生きる力を基礎として生きがいや希望を持って暮らすことができるよう、その妨げとなる諸要因の解消に資するための支援とそれを支えかつ促進するための環境の整備充実が幅広くかつ適切に図られることを旨として、実施されなければならない。

2 自殺対策は、自殺が個人的な問題としてのみ捉えられるべきものではなく、その背景に様々な社会的な要因があることを踏まえ、社会的な取組として実施されなければならない。

3 自殺対策は、自殺が多様かつ複合的な原因及び背景を有するものであることを踏まえ、単に精神保健的観点からのみならず、自殺の実態に即して実施されるようにしなければならない。

4 自殺対策は、自殺の事前予防、自殺発生の危機への対応及び自殺が発生した後又は自殺が未遂に終わった後の事後対応の各段階に応じた効果的な施策として実施されなければならない。

5 自殺対策は、保健、医療、福祉、教育、労働その他の関連施策との有機的な連携が図られ、総合的に実施されなければならない。

(国及び地方公共団体の責務)

第三条 国は、前条の基本理念(次項において「基本理念」という。)にのっとり、自殺対策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

- 2 地方公共団体は、基本理念にのっとり、自殺対策について、国と協力しつつ、当該地域の状況に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。
- 3 国は、地方公共団体に対し、前項の責務が十分に果たされるように必要な助言その他の援助を行うものとする。

(事業主の責務)

第四条 事業主は、国及び地方公共団体が実施する自殺対策に協力するとともに、その雇用する労働者の心の健康の保持を図るため必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

(国民の責務)

第五条 国民は、生きることの包括的な支援としての自殺対策の重要性に関する理解と関心を深めるよう努めるものとする。

(国民の理解の増進)

第六条 国及び地方公共団体は、教育活動、広報活動等を通じて、自殺対策に関する国民の理解を深めるよう必要な措置を講ずるものとする。

(自殺予防週間及び自殺対策強化月間)

第七条 国民の間に広く自殺対策の重要性に関する理解と関心を深めるとともに、自殺対策の総合的な推進に資するため、自殺予防週間及び自殺対策強化月間を設ける。

- 2 自殺予防週間は九月十日から九月十六日までとし、自殺対策強化月間は三月とする。
- 3 国及び地方公共団体は、自殺予防週間においては、啓発活動を広く展開するものとし、それにふさわしい事業を実施するよう努めるものとする。
- 4 国及び地方公共団体は、自殺対策強化月間においては、自殺対策を集中的に展開するものとし、関係機関及び関係団体と相互に連携協力を図りながら、相談事業その他それにふさわしい事業を実施するよう努めるものとする。

(関係者の連携協力)

第八条 国、地方公共団体、医療機関、事業主、学校(学校教育法(昭和二十二年法律第二十六号)第一条に規定する学校をいい、幼稚園及び特別支援学校の幼稚部を除く。第十七条第一項及び第三項において同じ。)、自殺対策に係る活動を行う民間の団体その他の関係者は、自殺対策の総合的かつ効果的な推進のため、相互に連携を図りながら協力するものとする。

(名誉及び生活の平穩への配慮)

第九条 自殺対策の実施に当たっては、自殺者及び自殺未遂者並びにそれらの者の親族等の名誉及び生活の平穩に十分配慮し、いやしくもこれらを不当に侵害することのないようにしなければならない。

(法制上の措置等)

第十条 政府は、この法律の目的を達成するため、必要な法制上又は財政上の措置その他の措置を講じなければならない。

(年次報告)

第十一条 政府は、毎年、国会に、我が国における自殺の概況及び講じた自殺対策に関する報告書を提出しなければならない。

第二章 自殺総合対策大綱及び都道府県自殺対策計画等

(自殺総合対策大綱)

第十二条 政府は、政府が推進すべき自殺対策の指針として、基本的かつ総合的な自殺対策の大綱(次条及び第二十三条第二項第一号において「自殺総合対策大綱」という。)を定めなければならない。

(都道府県自殺対策計画等)

第十三条 都道府県は、自殺総合対策大綱及び地域の実情を勘案して、当該都道府県の区域内における自殺対策についての計画(次項及び次条において「都道府県自殺対策計画」という。)を定めるものとする。

2 市町村は、自殺総合対策大綱及び都道府県自殺対策計画並びに地域の実情を勘案して、当該市町村の区域内における自殺対策についての計画(次条において「市町村自殺対策計画」という。)を定めるものとする。

(都道府県及び市町村に対する交付金の交付)

第十四条 国は、都道府県自殺対策計画又は市町村自殺対策計画に基づいて当該地域の状況に応じた自殺対策のために必要な事業、その総合的かつ効果的な取組等を実施する都道府県又は市町村に対し、当該事業等の実施に要する経費に充てるため、推進される自殺対策の内容その他の事項を勘案して、厚生労働省令で定めるところにより、予算の範囲内で、交付金を交付することができる。

第三章 基本的施策

(調査研究等の推進及び体制の整備)

第十五条 国及び地方公共団体は、自殺対策の総合的かつ効果的な実施に資するため、自殺の実態、自殺の防止、自殺者の親族等の支援の在り方、地域の状況に応じた自殺対策の在り方、自殺対策の実施の状況等又は心の健康の保持増進についての調査研究及び検証並びにその成果の活用を推進するとともに、自殺対策について、先進的な取組に関する情報その他の情報の収集、整理及び提供を行うものとする。

2 国及び地方公共団体は、前項の施策の効率的かつ円滑な実施に資するための体制の整備を行うものとする。

(人材の確保等)

第十六条 国及び地方公共団体は、大学、専修学校、関係団体等との連携協力を図りながら、自殺対策に係る人材の確保、養成及び資質の向上に必要な施策を講ずるものとする。

(心の健康の保持に係る教育及び啓発の推進等)

第十七条 国及び地方公共団体は、職域、学校、地域等における国民の心の健康の保持に係る教育及び啓発の推進並びに相談体制の整備、事業主、学校の教職員等に対する国民の心の健康の保持に関する研修の機会の確保等必要な施策を講ずるものとする。

2 国及び地方公共団体は、前項の施策で大学及び高等専門学校に係るものを講ずるに当たっては、大学及び高等専門学校における教育の特性に配慮しなければならない。

3 学校は、当該学校に在籍する児童、生徒等の保護者、地域住民その他の関係者との連携を図りつつ、当該学校に在籍する児童、生徒等に対し、各人がかけがえのない個人として共に尊重し合いながら生きていくことについての意識の涵かん養等に資する教育又は啓発、困難な事態、強い心理的負担を受けた場合等における対処の仕方を身に付ける等のための教育又は啓発その他当該学校に在籍する児童、生徒等の心の健康の保持に係る教育又は啓発を行うよう努めるものとする。

(医療提供体制の整備)

第十八条 国及び地方公共団体は、心の健康の保持に支障を生じていることにより自殺のおそれがある者に対し必要な医療が早期かつ適切に提供されるよう、精神疾患を有する者が精神保健に関して学識経験を有する医師(以下この条において「精神科医」という。)の診療を受けやすい環境の整備、良質かつ適切な精神医療が提供される体制の整備、身体の傷害又は疾病についての診療の初期の段階における当該診療を行う医師と精神科医との適切な連携の確保、救急医療を行う医師と精神科医との適切な連携の確保、精神科医とその地域において自殺対策に係る活動を行うその他の心理、保健福祉等に関する専門家、民間の団体等の関係者との円滑な連携の確保等必要な施策を講ずるものとする。

(自殺発生回避のための体制の整備等)

第十九条 国及び地方公共団体は、自殺をする危険性が高い者を早期に発見し、相談その他の自殺の発生を回避するための適切な対処を行う体制の整備及び充実に必要な施策を講ずるものとする。

(自殺未遂者等の支援)

第二十条 国及び地方公共団体は、自殺未遂者が再び自殺を図ることのないよう、自殺未遂者等への適切な支援を行うために必要な施策を講ずるものとする。

(自殺者の親族等の支援)

第二十一条 国及び地方公共団体は、自殺又は自殺未遂が自殺者又は自殺未遂者の親族等に及ぼす深刻な心理的影響が緩和されるよう、当該親族等への適切な支援を行うために必要な施策を講ずるものとする。

(民間団体の活動の支援)

第二十二条 国及び地方公共団体は、民間の団体が行う自殺の防止、自殺者の親族等の支援等に関する活動を支援するため、助言、財政上の措置その他の必要な施策を講ずるものとする。

第四章 自殺総合対策会議等

(設置及び所掌事務)

第二十三条 厚生労働省に、特別の機関として、自殺総合対策会議(以下「会議」という。)を置く。

- 2 会議は、次に掲げる事務をつかさどる。
 - 一 自殺総合対策大綱の案を作成すること。
 - 二 自殺対策について必要な関係行政機関相互の調整をすること。
 - 三 前二号に掲げるもののほか、自殺対策に関する重要事項について審議し、及び自殺対策の実施を推進すること。

(会議の組織等)

第二十四条 会議は、会長及び委員をもって組織する。

- 2 会長は、厚生労働大臣をもって充てる。
- 3 委員は、厚生労働大臣以外の国务大臣のうちから、厚生労働大臣の申出により、内閣総理大臣が指定する者をもって充てる。
- 4 会議に、幹事を置く。
- 5 幹事は、関係行政機関の職員のうちから、厚生労働大臣が任命する。
- 6 幹事は、会議の所掌事務について、会長及び委員を助ける。
- 7 前各項に定めるもののほか、会議の組織及び運営に関し必要な事項は、政令で定める。

(必要な組織の整備)

第二十五条 前二条に定めるもののほか、政府は、自殺対策を推進するにつき、必要な組織の整備を図るものとする。

附 則 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成二七年九月一一日法律第六六号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成二十八年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

(自殺対策基本法の一部改正に伴う経過措置)

第六条 この法律の施行の際現に第二十七条の規定による改正前の自殺対策基本法第二十条第一項の規定により置かれている自殺総合対策会議は、第二十七条の規定による改正後の自殺対策基本法第二十条第一項の規定により置かれる自殺総合対策会議となり、同一性をもって存続するものとする。

附 則 (平成二八年三月三〇日法律第一一号) 抄

(施行期日)

1 この法律は、平成二十八年四月一日から施行する。

2 自殺対策推進本部設置規程

(平成30年3月30日訓令甲第8号)

(設置)

第1条 本市における生きることの包括的な支援を推進するとともに、自殺対策を総合的かつ統一的に進めるため、自殺対策推進本部(以下「本部」という。)を設置する。

(組織)

第2条 本部は、別表に掲げる者を本部員として組織する。

(本部長等)

第3条 本部に本部長及び副本部長を置く。

2 本部長は市長をもって充て、副本部長は副市長をもって充てる。

3 本部長は、会務を総理し、会議の議長となる。

4 本部長に事故があるときは、あらかじめ本部長が指名する副本部長がその職務を代理する。

(会議)

第4条 本部の会議は、本部長が招集する。

2 本部は、必要に応じて本部員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第5条 本部の庶務は、民生局健康部保健所保健予防課において行う。

(その他の事項)

第6条 この規程に定めるもののほか、本部の運営に関し必要な事項は、本部長が定める。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 (令和3年7月30日訓令甲第14号)

この規程は、令和3年8月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

別表 (第2条関係)

(令3訓令甲2・令3訓令甲14・一部改正) (P.111に掲載のとおり)

3 自殺対策推進課長会議設置要綱

(設置)

第1条 本市における生きることの包括的な支援の推進に資するため、庁内に自殺対策推進課長会議（以下「課長会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 課長会議は、次に掲げる事項に係る事務を所掌する。

- (1)自殺の現状把握に関する情報交換
- (2)自殺対策の連携に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、自殺対策に関し必要な事項

(組織)

第3条 課長会議は、別表に掲げる職員を委員として組織する。

(会長等)

第4条 課長会議に会長を置き、民生局健康部保健所保健予防課長をもって充てる。

- 2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 会長に事故があるときは、あらかじめ会長が指名する者がその職務を代理する。

(会議)

第5条 課長会議の会議は、会長が招集する。

- 2 課長会議は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 課長会議の庶務は、民生局健康部保健所保健予防課において行う。

(その他の事項)

第7条 この要綱に定めるもののほか、課長会議の運営に関し必要な事項は、課長会議の同意を得て会長が定める。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

別表(第3条関係)

市長室国際交流・基地政策課長 同人権・ダイバーシティ推進課長 経営企画部
企画調整課長 総務部総務課長 財務部財務管理課長 文化スポーツ観光部企画
課長 税務部税制課長 民生局福祉こども部地域福祉課長 同障害福祉課長
同生活支援課長 民生局地域支援部市民生活課長 民生局健康部地域健康課長
同保健所保健予防課長 民生局こども家庭支援センターこども家庭支援課長 環
境部環境政策課長 経済部経済企画課長 都市部都市計画課長 建設部土木計画
課長 港湾部港湾企画課長 上下水道局経営部総務課長 消防局救急課長 教育
委員会事務局学校教育部支援教育課長

4 横須賀市自殺対策推進協議会設置要綱

(設置)

第1条 本市内の関係機関が連携を強化し、現状、課題及びこれらを踏まえた自殺対策の情報を共有するため、横須賀市自殺対策推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 協議会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1)自殺の現状把握に関する情報交換
- (2)市及び関係機関における連携方法についての意見交換
- (3)自殺対策に関する意見交換
- (4)その他協議会が必要と認める事項

(組織)

第3条 協議会の構成員は、30人以内とする。

2 協議会は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1)市民、学識経験者、関係団体の代表者、労働基準監督署その他の関係行政機関の職員のうち市長が依頼した者
- (2)保健所長

3 構成員の任期は、2年とする。ただし、補欠構成員の任期は、前任者の残任期間とする。

(座長等)

第4条 協議会に座長及び副座長を置き、構成員が互選する。

- 2 座長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 座長に事故があるときは、副座長がその職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、座長が招集する。

2 協議会は、必要に応じて構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、民生局健康部保健所保健予防課において行う。

(その他の事項)

第7条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会の同意を得て座長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成18年12月1日から施行する。

(経過規定)

2 第3条第4項の規定にかかわらず、この要綱の施行後初めて委嘱され、又は任命された委員の任期は、平成21年3月31日までとする。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年8月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和4年4月1日から施行する。